

号外

琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

2018年(平成30年)
8月11日(土)

発行所 琉球新報社

郵便番号 〒900-8525

那覇市泉崎1-10-3

©琉球新報社2018年

「撤回」の意思継承

辺野古「土砂投入許さない」県民大会 翁長知事悼み民意示す



多くの県民らが参加した「土砂投入を許さない！ジュゴン・サンゴを守り、辺野古新基地建設断念を求め8・11県民大会」11日前、那覇市の奥武山陸上競技場

米軍普天間飛行場の県内移設に伴う名護市辺野古の埋め立て阻止に向けた「土砂投入を許さない！ジュゴン・サンゴを守り、辺野古新基地建設断念を求め8・11県民大会」(辺野古に新基地を造らせないオール沖縄会議主催)が11日午前11時、那覇市の奥武山公園陸上競技場で始まった。3万人以上の結集を目標とした大会は、8日に急逝した翁長雄志知事を哀悼する思いも重なり、午前10時の開場の前から多くの人々が続々と会場入りした。参加者は「県民は諦めない」などと書いたメッセージボードを掲げ、翁長知事が表明した埋め立て承認の撤回を支持する民意を示した。

大会では、沖縄防衛局 最後まで貫いた翁長知事が17日にも始めると県に 通知した辺野古地先への 土砂投入に対し「沖縄県 民の民意を踏みにじり、 環境破壊につながる違法 工事を強行し続けている」として、建設計画の断念を要求する8・11県民大会決議を採択する。

参加者は辺野古の海と空をイメージした大会カラーの青色とともに、喪章や黒いリボンを身に付けて翁長雄志氏への追悼の意を示した。冒頭に1分間の黙とうをささげ、新基地建設阻止の公約を

「翁長知事は死して反基地運動のガリスマとなった。民が心を一つにして反基地運動の最大の供養だ。沖縄は国家権力の不当弾圧にはもう絶対屈しないぞ！」

最後まで貫いた翁長知事 的意思を受け継ぐ決意を 確認した。

翁長知事の息子の翁長 雄治那覇市議が登壇、知 事の最後の言葉を伝え た。知事職務代理者の謝 花喜一郎副知事は、大会 出席に意欲を示していた 翁長知事が生前に用意し ていたあいさつを読む。

沖縄県による撤回を後 押しする大会決議では 「沖縄県民の命とくらし、 沖縄の地方自治と日本の 民主主義と平和を守るた めこの不条理に全力で抗 い続ける」と宣言する。

翁長知事を追悼する参加者



亡き知事への思いを胸に参加する人々＝11日、那覇市の奥武山陸上競技場



喪章をつけた少女



親子三代で訪れた参加者ら



続々と集まる参加者ら

基地建設に反対のプラカードを掲げる参加者



8・11県民大会決議(案)

国は、8月17日からの辺野古地先への埋め立て土砂投入を沖縄県へ通知した。現在行われている環境アセスを無視した数々の違法工事は、仲井真前知事が退任の4日前に承認した追加申請によるものである。沖縄県は、沖縄防衛局に対し、再三にわたり工事実施前の事前協議を行うことを求めてきたが、沖縄防衛局はこれを無視し十分な説明を行うことなく、沖縄県民の民意を踏みにじり、環境破壊につながる違法工事を強行し続けている。

7月27日、翁長沖縄県知事は「埋立て承認撤回」を表明し、8月9日に聴聞を開始した。ただちに国は埋立て工事を中止し、新基地建設計画を断念すべきである。

私たちは安倍政権と沖縄防衛局に対し強い怒りを持って抗議する。私たちは豊かな生物多様性を誇る辺野古・大浦湾の美ら海に新たな基地を造らせない。沖縄県民の命とくらし、沖縄の地方自治と日本の民主主義と平和を守るためこの不条理に対し全力で抗い続ける。

今県民大会において、以下、決議し、日米両政府に対し、強く抗議し要求する。

記

- 1、ジュゴンやウミガメなどの生きていくための豊かな海藻場や希少なサンゴ類の生息環境を破壊する土砂投入計画を直ちに撤回すること。
- 2、大浦湾側には活断層の疑いがあり、その付近の海底には、超軟弱地盤が存在する。辺野古新基地の立地条件は成り立っていない。建設計画を直ちに白紙撤回すること。
- 3、沖縄高専、久辺小・中学校、集落は、米国の安全基準である高さ制限に抵触している。児童生徒と住民の生命と財産を脅かす新基地建設を直ちに断念すること。
- 4、欠陥機オスプレイ配備を撤回し、米軍普天間基地を即時閉鎖・撤去すること。
- 5、欠陥機オスプレイの国内における飛行を直ちに全面禁止すること。

宛先 内閣総理大臣、外務大臣、防衛大臣、沖縄及び北方対策担当大臣、米国大統領、駐日米国大使

2018年8月11日

辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議